

～忘れられない記憶に、耳をかたむけるために、語り継ぐために～

傾聴講座

戦争と阪神淡路大震災の体験を聴く

8月15日は、終戦記念日。69年の長い歳月が過ぎても、戦争を忘れられないと教えて下さる人がいます。

そして今年、阪神淡路大震災から20年。

命にかかわる戦争、震災、台風などの大きな出来事、自分だけの出来事が、だれの人生にもあります。

いま、3T(話、涙、時)を大切にする傾聴が求められています。話せない気持ち、沈黙に寄り添うことも大切です。

戦争・震災の体験を聴きながら、傾聴ボランティアに必要なことを学びます。

日時 2014年 8月10日(日) 午後1時半～3時半

会場 特別養護老人ホーム西長洲荘 (〒660-0805尼崎市西長洲町3-3-20)

内容 ①戦争・阪神淡路大震災を体験した方(要介護高齢者)の話
②傾聴ボランティアに必要な知識・技術、3T・3Cの話

講師: 栗野真造(西長洲荘・主任介護支援専門員。前北海道教育大学講師)

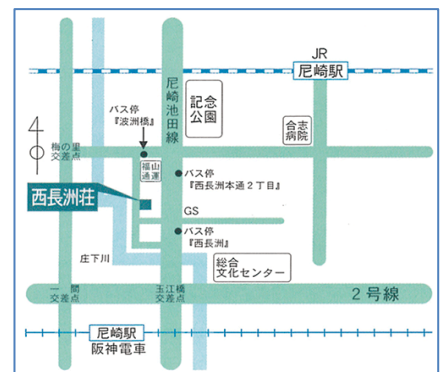
参加費 無料、先着定員30名、要申込み

連絡先 電話06-6483-5514 FAX06-6489-2941

主催 社会福祉法人平成会・西長洲荘



吉見ツヤ子さん(左)、河本登さん(右)の話を傾聴する中高生ボランティア



話し 河本 登(77歳。終戦の日は8歳。震災の日は57歳。西長洲荘デイ利用者)

大阪で機銃掃射・空襲体験。在日朝鮮の人を助け、いじめを受ける。病院が焼け足を治療できず。尼崎で震災。体の上にテレビやタンス落下。母は揺れのショックで体調を崩し認知症に。

吉見ツヤ子(90歳。終戦の日は小学校教員22歳。震災の日は70歳、西長洲荘デイ利用者)

鹿児島で空襲。爆弾で二軒隣の家の女性が両足を吹き飛ばされ死亡。防空壕や裏山に逃げる。尼崎で震災。揺れで目が覚め机の下に逃げる。同じ団地の人がタンスの下敷きの怪我で死亡。

栗野真造(西長洲荘・主任介護支援専門員。前北海道教育大学講師)

父が満州出兵、シベリア抑留3年。阪神淡路大震災で両親は仮設住宅。脳梗塞、癌で死亡。ストレスやトラウマのケアに3T(話、涙、時)、3Cが有効。3T、3Cを支える傾聴の在り方を講義。